

雨がふらない年



<たべものをもとめて>

作 / 構成： 村田祈世子

写真：WFP国連世界食糧計画

無断複製を禁じます



この子の名前はアーメッド。

アフリカにあるエチオピア

という国に住んでいます。

よく見ると、

アーメッドの手と足は

すごく細くて、

おなかが、ふくらんでいますね。

この子は、

食べるものがなんにもなくて、

体が悪くなってしまったのです。



アーメッドのお父さんは、

牛を使って畑を耕して、

とうもろこしを、たくさん作っていました。

エチオピアでは、

とうもろこしは、毎日の食べ物です。

たくさんとれたとうもろこしを市場で売って、

ほかの食べ物や服をかうのです。

でもこのごろお父さんは、

畑で考えこんでいることが多くなりました。

4年間も続けて

雨がほんの少ししかふらなかったので、

畑の土がすっかりかわいてしまい、

なにも育たないのです。

アーメッドに食べさせるものが

なんにもないのです。



食べるものがなくて、
おなかをすかせて
しんでいるのは、
アーメッドばかりではありません。
数えきれないほど
たくさんの人が、
アーメッドの家族と同じように、
食べものがなくて
苦しんでいます。食べるものが何もない人たちは、
下痢をしてしまうことが
わかっていても、
まだ熟していない木の実や、
トウモロコシの茎のシンだって食べます。
子どもは栄養がとれなくて、
皮膚がガサガサになり、
おなかがふくれています。
畑にまくためにとっておいたいいじな種も、
とっくに食べてしまいました。



草も枯れて、水も少なくなって、

たくさんの牛やヤギが死んでしまいました。

牛やヤギが死んでしまうと、

赤ちゃんのミルクもなくなってしまいます。

村長さんがいました。

「食べ物をもたらるところがあるそうだ。

そこまで行けば助かる。

みんなで歩いていこう。」



みんな自分たちの村から離れたことがありません。
遠くてよく分からない所へ行くのは、
とても恐ろしいことです。

でも、食べるものが何もなければ、
死んでしまいますから、
たくさんの方が

村長さんの言ったことを信じて、歩き始めました。

星が冷たく光る夜

眠っているやせ細ったアーメッドをみつめ
お父さんも、決心しました。

「家も畑も捨てて、食べ物のある所まで
家族を連れて行くぞ。」

お母さんは黙っています。

アーメッドの手をにぎっている

お母さんの手がふるえています。



食べ物をもたらす所は

それは それは とおい。

何日も 何日も 歩き続けなければなりません。

みんな黙って歩いていきます。

アーメッドは、お母さんに手をひかれて歩いていきます。

お母さんの腕の中には、

生まれたばかりの小さな弟が抱かれています。

弟は時々弱々しい泣き声をたてています。



何日も歩いて行く間に、

何人も、

何十人もの人が、

力が尽き、

声もなく 倒れていきました。



やっとたどりついた所は、

「避難民キャンプ」

とよばれているところです。

青い字で**WFP**とかいた旗が立っていました。

そこで食べ物や、水を配っているのです。



アーメッドは、

お医者さんに診てもらい

食べ物をもらって、

元気になりました。でも生まれたばかりの

小さな弟は

お母さんの腕の中で、

息をしなくなってしまいました。

食べ物がないもなかったの

でお母さんのお乳が

出なくなってしまったのです。

赤ちゃんに

お乳を飲ませて

あげられなかったお母さんは、

一晩中泣いていました。

アーメッドを見る

お母さんの目には

まだ涙がたまっています



まいにち まいにち

食べ物をもとめて、

やせ細った

たくさんの人が

キャンプにやってきました。



まいにち まいにち

誰かが 命を失い

どこかで 泣き悲しむ声が

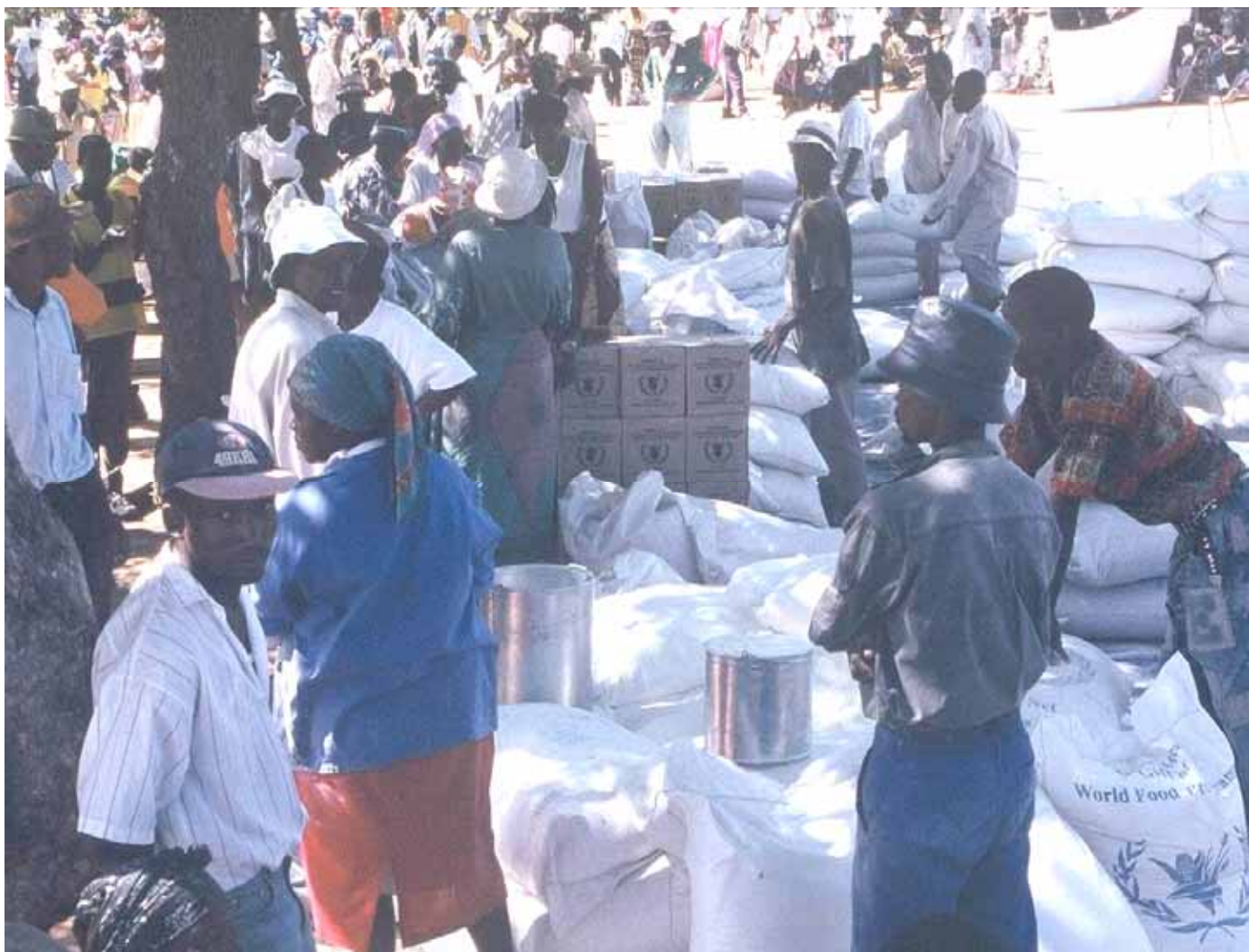
聞こえています。

もうこれ以上

「たべるものがない」という 理由で

人が死ぬのを見たくない

みんな思っています。



食べ物を配っていたのは、

『WFP』というところで働いている人たちです。

WFPというのは、

世界中の色々な国の人たちが集まって作っている
国際連合の中のひとつのグループです。

WFPは

アーメッドのように、

食べるものがなくなって

苦しんでいる人たちが 大勢いる所へ、

食べ物を運んでいきます。



WFPは

色々な国の 色々なグループと

協力しながら

「もうこれ以上 食べる物がなくて

人が死ぬのを見たくない」

という世界中の人たちの思いを

食べ物にして 届けているのです。



WFPは

食べ物を運んでいきます。

船で、飛行機で、

トラックで、

ボートで、

ヘリコプターで、

ラクダで、

ゾウで、

ロバで。





路がないところでは、路をつくり、

港のないところには、港を作り、

壊れた港や橋、

鉄道の レール、

空港などを 直しながら、

できるだけ早く、

できるだけ沢山の人に、

食べ物をお届けます。



世界中の人たちの協力のおかげで、

キャンプでは、

食べものを用意できます。

キャンプには、病院もあるし、

子どもたちに、勉強も教えてくれます。

元気をなくしていた子どもたちも、

何日かキャンプで暮らしているうちに、

みんな元気になってきます。

ほら、みんなニコニコ笑っているでしょ。



アーメッドの一家がキャンプで暮らすようになって
3年たちました。

元気になった子どもたちが、
キャンプの中を走りまわっています。

6才になったアーメッドの姿も見えます。



元気をとりもどした子どもたちは、

将来の夢を持つことができるようになりました。

「ぼくは、お医者さんになりたい」

「わたしは 学校の先生」

「ぼくは大統領になって、

戦争のない国を作るんだ」



アーメッドたちは、

ほんとは家に帰りたいたいです。

前のようにトウモロコシを沢山作って

自分たちの力で暮らしたいと思っています。

でも、繰り返して起こる

干ばつや洪水で、畑の土は荒れはてています。

地雷が埋められていたり

戦争のために

帰ることもできない地方の人もあります。



エチオピアのある地方では、

WFPと村の人たちが協力して

この大きな池を造りました。

池はとても大きいので、

村中の人たちが、作物を 沢山作り続ける

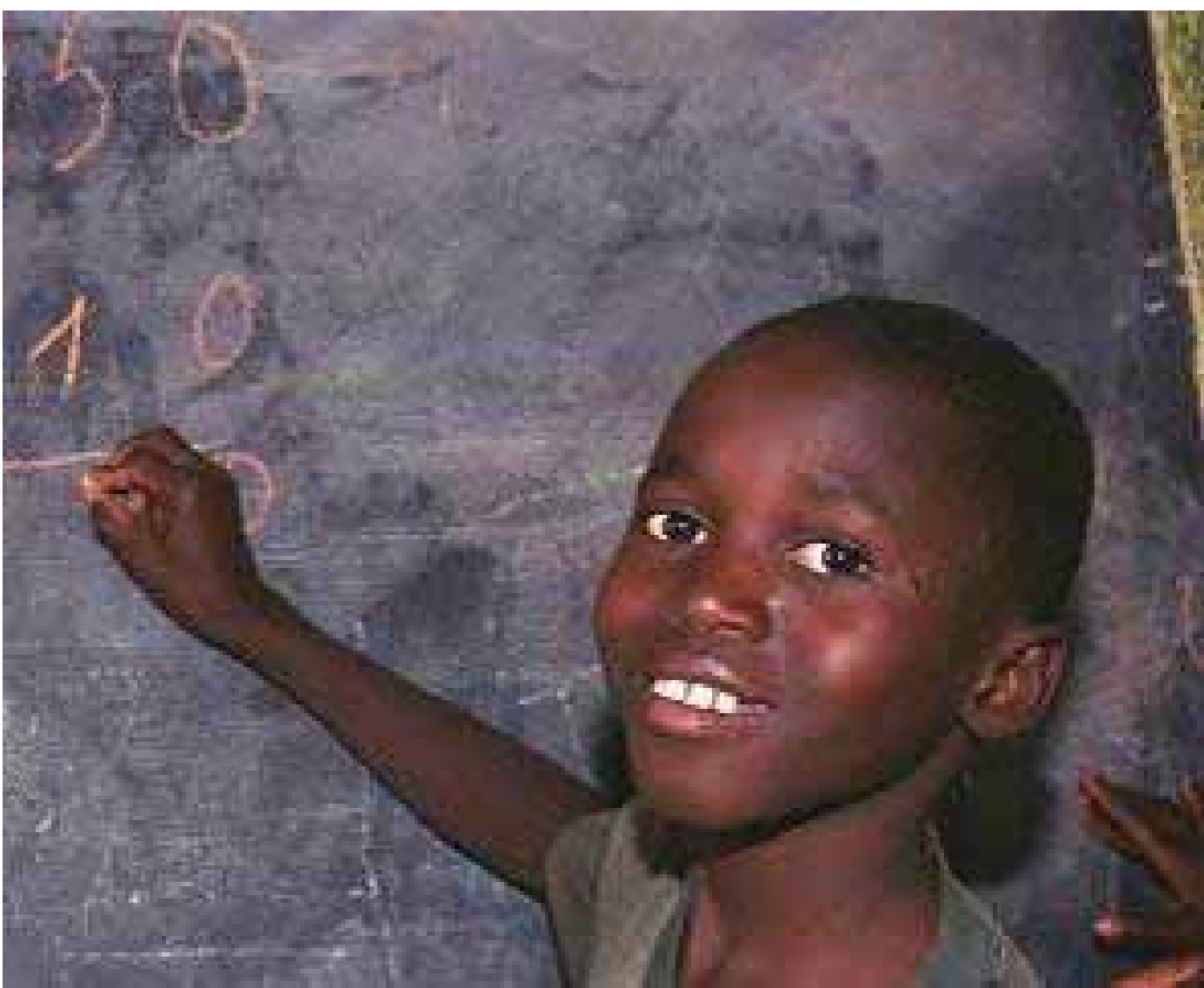
ことができそうです。

家畜にも水をやることができます。

大きな干ばつにも耐えることができそうです。

こうした事が、エチオピアのあちこちで

できるといいですね



アーメッドたちの夢が本当になるように

みんなが家に帰ることができて

二度と飢えることがないように

日本にいる私たちに何かできないでしょうか

一人一人にできることは小さいかもしれませんが

でも、何でも小さいことが集まってできるのです

アーメッドたちががんばっています。

みんなで考えてみましょう。

私たちにもできることがなにかあるはずですよ。